

## 東洋と西洋の逆転

再び人口規模がものをいう時代に

# 品質重視で日本製は最善

私はジャーナリストとして取材をするなかで、「西洋と東洋の逆転」という仮説にたどり着いた。今、確信をもつ事実が次々に出ている。一つは米国のGDPの劇的な方針転換だ。「グローバル・サービス・エコノミー」と呼ぶリーマン・ショック前までのビジネスモデルは、すべてを本社で考え、市場に応じてスペックを変え、これをまったく変えた。たとえばハイテク製品の一つである超音波診断装置。中国で開発した製品が今や先進国に逆流

### 長崎大リレー講座 寄稿①

経済ジャーナリスト

たからべ せいいち  
**財部 誠一氏**

し、グローバルな大ヒットとなっている。このプロセスでGDPは注力すべき市場の優先順位を大きく転換した。それまでは米国、欧州、日本、その他の諸国という順番だったが、今では市場を三つに分類し直し「人口大国」と「資源大国」を優先し、日欧などは「その他」と扱われている。リーマン・ショックを挟んで、先進国から新興国へ、西洋から東洋へと優先度が大きく変わったのだ。リーマン・ショックの崩壊は過去にも何度も起きているが、恐るべきはその規模で、米国と欧州の経済が一度に崩壊した。そこに中国が台頭し、経済でも圧倒的な力をもつようになった。国民所得の面でも日本の1970年並みになり消費が爆発した。台湾企業や韓国企業の動きからも、そのことは確信できる。

こうした中でデジタルカメラをOEM供給する台湾企業の社長は「われわれはメイドインジャパになる」と話す。この会社は中国工場で中国人を使って中国製部品で製品を作っていたが、今後は日本製部品に換えるという。韓国企業も同様で、「日本製部品の使用」が中国市場で戦う最善の道だと考えている。いずれも、中国の消費が価格志向から品質志向へと変わりつつある動きを捉えたものだ。「これからはアジアの時代だ」と言うときに、なぜか日本にだけ「もう駄目だ」という悲観論が覆っている。政治的には中国は間違い存在が認められないが、巨大市場に近い日本は欧米にとつてうらやましい存在だ。世界全体における日本の位置付けを冷静に、客観的に見ると、それほど捨てたものではない。今こそ現実的に物事に対処していく姿勢が大切だ。